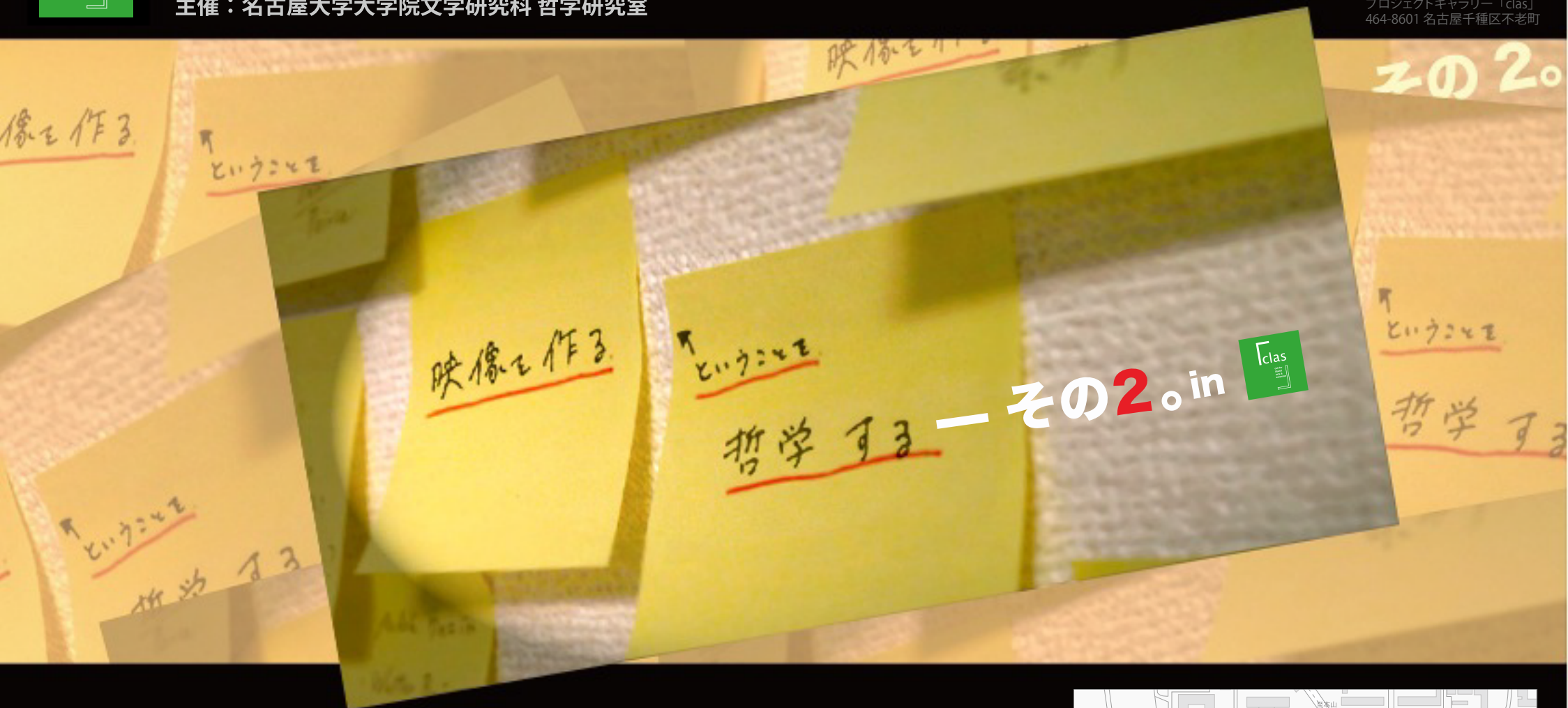


「映像を作る、ということを哲学する—その2。」

2012年5月7日[月]—5月11日[金] 10:00—18:00 (初日は13:00から、最終日は17:00まで)

主催：名古屋大学大学院文学研究科 哲学研究室

名古屋大学教養教育院
プロジェクトギャラリー「clas」
464-8601 名古屋千種区不老町



映像を作る、ということを哲学する — その2。in

■ギャラリートーク
「映像 × 哲学：制作と思考、その先へ」

パネリスト

池側隆之 | 映像デザイン

(名古屋大学大学院国際言語文化研究科 准教授)

金山弥平 | 哲学

(名古屋大学大学院文学研究科 教授)

2012年5月7日(月) 16:00-17:30

プロジェクトギャラリー「clas」(予約不要・入場無料)

世の中には多くの映像理論の書がある。その中には、哲学的視点から、映像技術への期待や願いが込められているかのようなものも少なくない。ヴァルター・ベンヤミン、アンドレ・バザン、ジル・ドゥルーズなどは、映画や映像に潜在する思考の方法を刷新する力を見ているのだ。大げさな言い方をすれば、本企画はそうした「願い」の系譜のうちにある。

——「映像を作る、ということを哲学する」という名のもとに行われるこの実験は、イメージが作られる過程・意味が作られる過程に注目しながら、みなさんと一緒に考えたい、というものです。それは、
(1) 小難し 言えば、映像なるものを哲学的に問いながら、哲学なるものを映像を介して問い返す、ある種のメタ哲学的実験であり、
(2) 簡単に言えば、映像を作って、見る、ということでも当たり前のことをカッコつけてみせる試みです。



地下鉄名城線「名古屋大学」駅、1番出口より西へ5分、名古屋大学全学教育南棟入口横